科目名	管打楽器奏法Ⅰ		担当教員	古井　成三	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2MIM105
期待される学修成果	基礎教養　教科教育				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	音楽系部活動・課外活動外部指導者並びに外部講師（金管楽器トレーナーなど）				
実務経験を生かした授業内容	音楽系部活動・課外活動外部指導者の経験を活かし、各楽器ごとに異なる知識の総合的な活用法についてレッスンする。				
到達目標及びテーマ	(初心者・経験者共通）学生自身が選択した金管楽器の基本奏法を知り、美しい音色で演奏できる能力を養う。金管楽器基本奏法の習得で、より広い専門知識を得ることができる。				
授業の概要	原則的に個人レッスンの形態で行う。 教員が指摘した問題点を学生は次回までに努力して解決していくことが求められる。 特にアンブシュア、呼吸法、運指、移調楽譜の読み替え等に留意して美しい音色を目指す。 定期試験では原則ピアノ伴奏つきの楽曲を演奏することで合奏能力の向上もはかる。 経験者の場合には、中世、ルネッサンス、バロック時代から古典派の作品を取り上げる。				

授業計画	
第1回	楽器選択（全員５２０１又は５２０３に集合)～希望する楽器の選択、その後各楽器のレッスン室に分かれ、講師の指示に従う（金管パートは楽器決め、テキスト紹介など）～
第2回	楽器選択の続き。 選択楽器が決まっている場合、以降通常のレッスンとなり、楽器の手入れ、メンテナンス方法・呼吸法並びにマウスピースを使っての音出しと運指、ポジション等を学ぶ。
第3回	基本的にこの回以降テキスト(朝練シリーズ)を使用して進める。 基本奏法①～基本となる音階習得、ロングトーンとタンギング～
第4回	基本奏法②～色々な発音とアーティキュレーション、ダイナミクスを組み込んで音出ししてみる～
第5回	基本奏法③～リップスラーを学ぶ～
第6回	基本奏法④～リップスラーを活用し、音域を広げる～
第7回	基本奏法⑤～ソルフェージュ、音程・ピッチの意識～
第8回	基本奏法⑥～ソルフェージュ、表現力の更なる拡大～
第9回	基本奏法⑦～歌唱法から学ぶ楽器奏法と脱力の意識～
第10回	試験曲の設定～楽曲選択、試奏～
第11回	試験曲の決定。試奏①～アナリーゼとは？～
第12回	試験曲の試奏②～アナリーゼと表現の共有～
第13回	試験曲の試奏③～曲演奏における表現と精神面のコントロール～
第14回	伴奏を伴っての試験曲の試奏①～合奏することの意識～
第15回	伴奏を伴っての試験曲の試奏②～最終確認とイメージトレーニング～

事前学修	0.5時間	①選択する楽器を決めておく②～⑮楽器の清掃・消毒管理を徹底する②選択楽器の基礎知識を予習③呼吸法・運指確認④～⑨テキストの各項目を読み音出し練習する⑩⑪候補曲と伴奏者を決めておく⑫⑬試験曲の練習⑭⑮伴奏者との合わせを詳密に行い、可能なら録音し課題をまとめておく
事後学修	0.5時間	①～⑮楽器の清掃・消毒管理を徹底する①音出し及び各担当講師への履修確認②手入れ方法や記譜、基本奏法を確認する③～⑥反復練習⑦～⑨楽器の音出しだけでなく、声に出して歌ってみる⑩試験曲を決めておく⑪⑫⑬試験曲の練習⑭ソロ、伴奏者とお互いの意見をまとめておく⑮試験に向けてのイメージトレーニング
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	授業時間内において適時説明する。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等

定期試験	70%	実技：基本奏法、表現、音色等、まとめられて演奏出来ているか。
上記以外の試験・平常点評価	30%	指摘された問題点を改善出来たか、その取り組みに対する努力が見受けられたか。
補足事項	上記は、楽器初心者に向けたものであり、経験者の場合、経験の度合いによって内容を変更します。 選択した楽器だけでなく、伴奏を受け持つこともあるので、ピアノの練習も欠かさず行う。	

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
朝練トランペット等（他各金管楽器）	各著作者	全音楽譜出版社	各番号	初回レッスンにて指示
参考資料	はじめての管楽器メンテナンスブック（金管楽器編）（ヤマハミュージックメディア出版社） （ISBN番号978-4-636-85476-3 C 0073）			

科目名	管打楽器奏法Ⅰ		担当教員	中村　まり	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2MIM105
期待される学修成果					
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	到達目標：経験者、初心者共通目標；フルートを鳴らすということは、一つの物理的現象であって、物理的側面と音楽的側面の両立が必要である。音楽的な音を創造するだけでなく物理的に楽器を鳴らす技術の習得が優先される。Ⅰでは特に物理的側面にスポットを当てて基本奏法を学習する。 テーマ：フルートの基本奏法を理解し実践する。				
授業の概要	個人レッスンを基本とし、生徒一人一人のレベルに合った指導をする。特に正しいアンブシュア、呼吸、立ち方、座り方を身に付け安定した音作りを学習する。定期試験ではピアノ伴奏付きの楽曲を講師と相談のうえ決定し、ピアノとのアンサンブル力も併せて学習する。♯、♭、三つまでの長短の音階を暗譜で吹けるようにする。				

授業計画	
第1回	楽器、姿勢のチェック　音出し　準備してある曲があれば演奏してもらう
第2回	しっかりタンギングをし、音の立ち上がりを鮮明にする練習
第3回	Gの音を中心に中音域、低音域の音作りを学習する
第4回	アンブシュアのチェック　物理的に安定した音を得られるようにする
第5回	『ソノリテについて』を学ぶ　ビブラートをつけない安定した音を作る
第6回	ブリチャルディキー、Aisレバー、Fキーの使い分けと「ソノリテについて』
第7回	中音域と低音域の吹き分けの技術練習
第8回	『アルテⅠ』を使った音階準備練習
第9回	定期試験曲の相談と譜読み
第10回	定期試験曲のレッスン
第11回	定期試験曲のレッスン、音階と『ソノリテについて』
第12回	定期試験曲のレッスン、曲にニュアンスをつけて演奏を出来るようにする
第13回	定期試験曲のレッスン、ピアノとの伴奏合わせをする
第14回	定期試験曲のレッスン、伴奏者のバランス、細かなニュアンスを統一する
第15回	定期試験曲のレッスン、試験を想定し発表

事前学修	0.5	初心者：楽器の組み立て　頭部管を鳴らせるようにしておく　　経験者：任意の練習曲または楽曲およびスケールを練習しておく
事後学修	0.5	試験では各音域むらのない音で演奏出来たかを反省し、不足点を把握、今後に生かすようにする
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	●授業内に、課題改善が出来ているか個別にコメントし現在の状況が分かるようにする　●試験（実技）の終了後に演奏内容の評価（良い点、改善点）を個別にコメントする	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
定期試験	70%	レッスンで習得した技術を用い、どこまで音楽的に表現出来たかで評価する
上記以外の試験・平常点評価	30%	レッスンで学んだことが、次のレッスンで生されているか、その努力を評価する

補足事項	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし	なし	なし	なし	なし
参考資料				

科目名	管打楽器奏法Ⅰ		担当教員	桜井　牧男	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2MIM105
期待される学修成果	基礎教養　教科教育				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	学生自身が選択した管打楽器の基本奏法を知り、美しい音色で演奏できる能力を養う。 管打楽器基本の習得。				
授業の概要	原則的に個人レッスンの形態で行う。 教員が指摘した問題点を学生は次回までに努力して解決していくことが求められる。特にアンブシュア、呼吸法、バチの持ち方等に留意して美しい音色を目指す。 定期試験ではピアノ伴奏つきのソロを演奏することで合奏能力の向上もはかる。				

授業計画	
第1回	マウスピース、リガチャー、キャップ、教則本の有無の確認。
第2回	楽器の組み立て方、構え方、リードの取り付け方、アンブシュアの形等、音出しの準備と方法。
第3回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№1～№3（基礎の中音域の安定）
第4回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№4～№10（基礎の中音域の安定）
第5回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№11～№14（基礎の中音域の安定）
第6回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№15～№16（低音域ーの拡大）
第7回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№17～№20（№1～16の音域を使った反復練習）
第8回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№21～№29（№1～16の音域を使った反復練習）
第9回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№30～№32（オクターブキイの操作）
第10回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№33～№36（高音域への拡大）
第11回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№37（タンギングのマスター）
第12回	試験曲の決定及び譜読み。
第13回	試験曲の完成度のアップ。（ニュアンスの充実）
第14回	試験曲の伴奏合わせ。
第15回	試験曲の最終確認、伴奏合わせ。

事前学修	0.5時間	毎回のレッスン反復練習と、次回のレッスン内容の予習。
事後学修	0.5時間	レッスンの内容の確認と確実性を高めるトレーニングをする。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	実技試験（独奏）終了後、個別に講評を伝え、学生からの質問や要望を聞き取り、今後の課題、練習方法、目的などさらにレベルアップ出来るようアドバイスする。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
定期試験	70%	実技：基本奏法、表現、音色等、まとめられて演奏できているか。
上記以外の試験・平常点評価	30%	指摘された問題点を改善できたか、その取り組みに対する努力が見受けられたか。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
サクソフォーン奏者のためのＡＢＣ	プラティー	ビヨドー出版社	9790043028567	なし
参考資料				

科目名	管打楽器奏法Ⅰ		担当教員	悪原　至	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2MIM105
期待される学修成果					
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	リサイタル開催、依頼演奏				
実務経験を生かした授業内容	実技演奏試験に向けての楽曲演奏やマナーを学ぶ。				
到達目標及びテーマ	小太鼓とマリンバの奏法を基礎から学び、演奏を行うことができる。 技術面を磨にとどまらず、より音楽的な表現方法を身につけることができる。				
授業の概要	教育現場で取り扱う打楽器の種類は多岐にわたるが、多くの打楽器に技術が応用できる小太鼓とマリンバの奏法を学ぶ。リズムや技術の精度を高めるのはもちろんのこと、フレージングや音色感など、より音楽的な表現をできることを目指す。				

授業計画	
第1回	一つ打ちのトレーニング
第2回	リズム・トレーニング　4/4
第3回	リズム・トレーニング　6/8
第4回	小太鼓：スティック・コントロール マリンバ：マレットの持ち方および奏法
第5回	小太鼓：アクセント・トレーニング　4/4 マリンバ：スケールの練習（C dur）
第6回	小太鼓：アクセント・トレーニング　6/8 マリンバ：スケールの練習（半音階）
第7回	小太鼓：ロール奏法の導入 マリンバ：トレモロ奏法
第8回	小太鼓：ロール奏法のトレーニング マリンバ：アルペジオ
第9回	初級エチュード1曲目　譜読み
第10回	初級エチュード1曲目　トレーニング
第11回	初級エチュード1曲目　仕上げ
第12回	エチュード2曲目　譜読み
第13回	エチュード2曲目　トレーニング
第14回	エチュード2曲目　仕上げ
第15回	試験前の総仕上げ

事前学修	0.5時間	各授業の終わりに提示する事前学修課題を練習する。エチュードの譜読みを進める。
事後学修	0.5時間	授業でのアドバイスをもとに練習に取り組む。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	達成状況を口頭で伝える。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
定期試験	70%	演奏完成度を審査
上記以外の試験・平常点評価	30%	授業に対する意欲・態度
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
個別に指定	個別に指定	個別に指定	個別に指定	なし
参考資料				

科目名	管打楽器奏法Ⅱ		担当教員	古井　成三	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED3MIM406
期待される学修成果	教科教育　自己形成				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	音楽系部活動・課外活動外部指導者並びに外部講師（金管楽器トレーナーなど）				
実務経験を生かした授業内容	音楽系部活動・課外活動外部指導者の経験を活かし、各楽器ごとに異なる知識の総合的な活用法についてレッスンする。				
到達目標及びテーマ	（初心者・経験者共通）管打楽器奏法Ⅰで獲得した技能を更に発展させ、楽器演奏技術の更なる向上をめざす。又、管打楽器奏法Ⅱ前半では、童謡・文部省唱歌、昭和歌謡等の各作品を用い表現力を学ぶと同時に、各楽器の楽譜に使用される移調楽譜を学び、前述の楽曲をそれぞれを書き換え、読み替え、実際に演奏する実践を行う。 後半は、金管楽器のために書かれたエチュードも用い、専門的な技術・知識の拡大を目指すと共に、指導する側としての認識についても学んでいく。				
授業の概要	原則的に個人レッスンの形態で行う。 音階や練習曲を順序だてて練習し、安定した技術の習得に努める。 定期試験では主としてロマン派の作品をピアノ伴奏で演奏し、そのスタイルを自分のものとする。				

授業計画	
第1回	選択楽器の確認（全員５２０１又は５２０３に集合） ～確認後、各レッスン室にて講師の指示に従う（金管楽器は基本奏法の確認）～
第2回	音階を学ぶ①～テキスト(朝練シリーズ等)を使い、演奏頻度の高い調性の音階を学ぶ～
第3回	音階を学ぶ②～テキスト(朝練シリーズ等)を使い、2回目で学んだ音階以外の音階を学ぶと共に、可能なら短調の音階も学び、平行調の知識を身に付ける～
第4回	童謡・文部省唱歌を使って移調楽譜を作成し演奏する①～基本奏法の確認・移調楽譜の作成への初歩～
第5回	童謡・文部省唱歌を使って移調楽譜を作成し演奏する②～音の並べ方や表現力の確認・移調楽譜の作成へ～
第6回	童謡・文部省唱歌・昭和歌謡等を使って演奏する③～縦・横のソルフェージュと表現力の拡大・移調楽譜から移調演奏への取り組みへ～
第7回	童謡・文部省唱歌・昭和歌謡等を使って演奏する④～歌詞を意識した音の跳躍・躍動感・移調演奏実践～
第8回	金管楽器のために書かれたエチュードを使って演奏する①～技術力の向上を目指す～
第9回	金管楽器のために書かれたエチュードを使って演奏する②～転調に伴うソルフェージュの対応・リップスラーの応用～
第10回	金管楽器ために書かれたエチュードを使って演奏する③～音色・響き・芯の意識→試験曲の選択・設定～
第11回	試験曲の決定、試奏①～アナリーゼが出来ているか？～
第12回	試験曲の試奏②～表現力の拡大～
第13回	試験曲の試奏③～伴奏を想定した上でのソロパートの再構成～
第14回	伴奏を伴っての試験曲の試奏①～ソロと伴奏のバランス～
第15回	伴奏を伴っての試験曲の試奏②～最終調整～

事前学修	0.5時間	①～⑮楽器の清掃・消毒管理を徹底する①選択楽器の継続・変更を決めておく②③各調の音階を練習する④⑤⑥⑦指定された楽曲を聴き原譜を基に移調楽譜を作成する⑧⑨⑩指定された楽曲を練習する⑪試験曲を決めておく⑫⑬試験曲を練習する⑭⑮伴奏合わせをした上で、お互い改善点を話し合っておく
事後学修	0.5時間	①～⑮楽器の清掃・消毒管理を徹底する①各担当講師の履修確認②③各調の音階を練習する④⑤⑥指定された楽曲の移調楽譜を作成し練習する⑦⑧⑨指定された楽曲を練習する⑩試験曲を決めておく⑪⑫⑬試験曲を練習する⑭⑮試験にむけてのイメージトレーニングをする
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	授業時間内において適時説明する。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等

定期試験	70%	実技：今までに習得した技能を発揮した演奏が出来ているか。演奏作品の理解と表現が出来ているか。
上記以外の試験・平常点評価	30%	指摘された問題点を改善出来たか、その取り組みに対する努力が見受けられたか。
補足事項	上記の内容は、初心者、経験者共に共通であり、習熟度によって内容に変化が生じる。	

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
朝練トランペット等（他金管楽器）	各著作者	全音楽譜出版社	各番号	管打楽器奏法Ｉと同じものを使用
参考資料	はじめての管楽器メンテナンスブック（金管楽器編）（ヤマハミュージックメディア出版社） ISBM番号978－4－636－85476－3 C0073			

科目名	管打楽器奏法Ⅱ		担当教員	中村　まり	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED3MIM406
期待される学修成果	教科教育　自己形成				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	到達目標：Ⅰで身に着けた技術を発展させ、Ⅱでは音楽的側面から表情豊かな音づくりをし、同時に音楽を創造する力を養う テーマ：音楽表現に必要な美しい音、滑らかな指揮、クリアなタンギングを習得する				
授業の概要	ソノリテ、スケール、アルペジオ、タンギングの基礎を反復練習し、曲中で自由に使いこなせるようにする　練習曲を進め、Ⅱでは、特にバロック、古典の音楽を学習する				

授業計画	
第1回	『アルテⅠ』音階準備練習 または『タファネル＆ゴーベール１７の日課大練習』　１番
第2回	『ソノリテについて』を使いヴィブラートの練習
第3回	任意の練習曲（生徒のレベルに合わせる）
第4回	任意の練習曲、音階は調号を増す（『タファネル＆ゴーベールの日課大練習』　２番）
第5回	任意の練習曲、『タファネル＆ゴーベール１７の日課大練習』の１番の成果を聴く
第6回	任意の練習曲、『タファネル＆ゴーベール１７の日課大練習』の１２番を始める
第7回	任意の練習曲、低音域、中音域、高音域の吹き分けを学ぶ
第8回	任意の練習曲、『タファネル＆ゴーベール１７の日課大練習』の２番の成果を聴く
第9回	定期試験曲の相談と譜読み（バロックまたは古典の協奏曲から選ぶ）
第10回	定期試験曲のレッスン、『タファネル＆ゴーベールの日課大練習』の１２番の成果を聴く
第11回	定期試験曲のレッスン、『アルテⅠ』の音階準備練習の成果を聴く
第12回	定期試験曲のレッスン、曲にニュアンスをつけて演奏できるようにする
第13回	定期試験曲のレッスン、ピアノとの伴奏合わせをする
第14回	定期試験曲のレッスン、伴奏者とのバランス、細かなニュアンスの統一をする
第15回	定期試験曲のレッスン、試験を想定して発表

事前学修	0.5時間	任意の練習曲を三曲程度練習しておく 練習曲を表情豊かな音楽にするべくフレージングを考えておく
事後学修	0.5時間	古典の様式が表現できたかを講師とともに反省し今後に生かせるようにする
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	●授業内に、課題改善ができているか個別にコメントし現在の状況がわかる様にする ●試験（実技）の終了後に、演奏内容の評価（良い点、改善点）を個別にコメントする	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
定期試験	70%	レッスンで習得した技術を用い、どこまで音楽的に表現出来たかで評価する。
上記以外の試験・平常点評価	30%	レッスンで学んだことが、次のレッスンで生かされているか、その努力を評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし	なし	なし	なし	なし
参考資料				

科目名	管打楽器奏法Ⅱ		担当教員	桜井　牧男	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED3MIM406
期待される学修成果	教科教育　自己形成				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	管打楽器奏法Ⅰで獲得した技能を更に発展させ、音域の拡張や美しいアーティキュレーション、ソノリテを得られるように努力する。 又、その楽器の為に書かれたバロック派や古典の作品に対する理解を深めてゆく。 管打楽器の技術向上とバロック、古典音楽に対する理解。				
授業の概要	基本的には個人レッスンの形態で行う。 音階や練習曲を順序だてて練習し安定した技術の習得に努める。 定期試験では主として古典的な作品をピアノ伴奏で演奏し、そのスタイルを自分のものとする。				

授業計画	
第1回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№38～№40（タンギングの完成度アップ）
第2回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№41～№43（タンギングの完成度アップ）
第3回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№44（各演奏法（基礎奏法）の完成の確認）
第4回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№45～№47（Ｆ♯、Ｇ♭の運指と替え指について）
第5回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№48～№52（スケール練習）
第6回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№53～№56（8分音符について）
第7回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№57～№64（Ｇ♯、Ａ♭の運指について）
第8回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№65～№70（Ｂ♭、Ａ♯の運指と替え指について）
第9回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№71～№74（Ｃ♯、Ｄ♭の運指について）
第10回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№75～№78（デタッシェの練習）
第11回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№79～№81（Ｅ♭、Ｄ♯の運指について）
第12回	試験曲の決定及び譜読み。
第13回	試験曲の完成度のアップ。（ニュアンスの充実）
第14回	試験曲の伴奏合わせ。
第15回	試験曲の最終確認、伴奏合わせ。

事前学修	0.5時間	毎回のレッスン反復練習と、次回のレッスン内容の予習。
事後学修	0.5時間	レッスンの内容の確認と確実性を高めるトレーニングをする。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	実技試験（独奏）終了後、個別に講評を伝え、学生からの質問や要望を聞き取り、今後の課題、練習方法、目的などさらにレベルアップ出来るようアドバイスする。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
定期試験	70%	主として古典的な作品をピアノ伴奏で演奏し、そのスタイルを自分のものとすることができたか。
上記以外の試験・平常点評価	30%	指摘された問題点を改善できたか、その取り組みに対する努力が見受けられたか。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
サクソフォーン奏者のためのABC	プラティー	ビヨドー出版社	9790043028567	なし
参考資料				

科目名	管打楽器奏法Ⅱ		担当教員	悪原　至	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED3MIM406
期待される学修成果	教科教育　打楽器演奏				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	リサイタル開催、依頼演奏				
実務経験を生かした授業内容	実技演奏試験に向けての楽曲演奏やマナーを学ぶ。				
到達目標及びテーマ	管打楽器奏法Ⅰで修得した技能を更に高め、より豊かな表現を行うことができる。				
授業の概要	小太鼓とマリンバのより高度なテクニックを習得できるよう基礎練習を行いつつ、魅力的な演奏をできるよう表現方法も深化させていく。 デュオでの演奏にも取り組み、アンサンブル能力も培っていく。				

授業計画	
第1回	基礎練習（管打楽器奏法Ⅰで学んだ内容の復習）
第2回	基礎練習（新しい技術習得へ向けた準備）
第3回	小太鼓：装飾音符の演奏法を知る マリンバ：4本マレットの持ち方を知る
第4回	小太鼓：装飾音符の基礎練習 マリンバ：4本マレットの基礎練習
第5回	中級エチュード1曲目　譜読み
第6回	中級エチュード1曲目　トレーニング
第7回	中級エチュード　1曲目　仕上げ
第8回	デュオ・エチュード　1曲目　譜読み
第9回	デュオ・エチュード　1曲目　トレーニング
第10回	デュオ・エチュード　1曲目　仕上げ
第11回	中級エチュード　2曲目　譜読み
第12回	中級エチュード　2曲目　トレーニング
第13回	中級エチュード　3曲目　仕上げ
第14回	演奏における表現方法について学ぶ
第15回	試験前の総仕上げ

事前学修	0.5時間	各授業の終わりに提示する事前学修課題を練習する。エチュードの譜読みを進める。
事後学修	0.5時間	授業でのアドバイスをもとに練習に取り組む。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	達成状況を口頭で伝える。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
定期試験	70%	演奏完成度を審査
上記以外の試験・平常点評価	30%	授業に対する意欲・態度
補足事項		

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
個別に指定	個別に指定	個別に指定	個別に指定	なし
参考資料				

科目名	管打楽器奏法Ⅲ		担当教員	古井　成三	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED4MIM407
期待される学修成果	教科教育　態度				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	音楽系部活動・課外活動外部指導者並びに外部講師（金管楽器トレーナーなど）				
実務経験を生かした授業内容	音楽系部活動・課外活動外部指導者の経験を活かし、各楽器ごとに異なる知識の総合的な活用法や指導法についてレッスンする。				
到達目標及びテーマ	管打楽器奏法Ⅰ・Ⅱで習得した技能を更に高め、勉強の集大成となるよう努力する。又、その楽器のために書かれたロマン派や近現代の音楽に親しみ、数多くの近代的な奏法や記譜法にも興味を持つようにする。同時にオーケストラ・吹奏楽におけるソロパート、ジャズ・ポップス等多様なジャンルにおけるソロセクションなども研究して幅広い音楽性を身につける。選択した楽器を通して様々な音楽を理解することで教育実践力を磨く。				
授業の概要	基本的には集団レッスン形態で行うが※↓下記参照、時には教師との重奏や、学生同士のアンサンブルで合奏力を高め、音楽の楽しさを味わう。 定期試験ではピアノ伴奏で、ロマン派や近現代の作品に触れる。 習熟度によっては、それらの楽器を代表する楽曲(ソナタ、協奏曲、等)を演奏する。				

授業計画	
第1回	初回説明（全員５２０１又は５２０３に集合)～簡単な打ち合わせの後、各レッスン室にて講師の指示に従う（金管楽器は基本練習の確認）～
第2回	アンサンブル実習①～譜読み～和音、ハーモニーを学び、各楽器の役割を知る～
第3回	アンサンブル実習②～お互いに意見を出し合いアナリーゼをし共有する～
第4回	アンサンブル実習③～合奏の楽しみの共有から音楽の共有へ～
第5回	管楽合奏曲実習(吹奏楽・ブラスバンド)①～管楽合奏曲における各楽器のソロや重要な旋律を演奏することで知識を深める～
第6回	管楽合奏曲実習(吹奏楽・ブラスバンド)②～管楽合奏曲の実際のスコアを用いて読み替え移調奏を試み、それに伴う指導能力を学ぶ～
第7回	管弦楽曲実習(オーケストラスタディ)①管弦楽曲における各楽器のソロや重要な旋律を演奏することで知識を深める～
第8回	管弦楽曲実習(オーケストラスタディ)②～管弦楽曲のソロや重要な旋律を演奏することで楽曲における楽器の役割を学ぶ～
第9回	ポピュラー音楽実習①～ポピュラー音楽における金管楽器を使用した曲を通じてホーンセクションの役割と知識を学ぶ～
第10回	ポピュラー音楽実習②～ホーンセクションを通じて様々なジャンルの音楽を学び、子どもたちの持つ音楽の多様性に対応できる知識・柔軟性を課する→試験曲の設定※追加補足参照↓
第11回	試験曲の試奏①～アナリーゼ、曲想を理解出来ているか～
第12回	試験曲の試奏②～空間性、ニュアンスの拡充～
第13回	試験曲の試奏③～ソロパートの総合的なまとめ～
第14回	伴奏を伴っての試験曲の試奏①～伴奏者とのアナリーゼ、音楽の共有が出来ているか～
第15回	伴奏を伴っての試験曲の試奏②～作品としての仕上げ、最終確認～

事前学修	0.5時間	①～⑮楽器の清掃・消毒管理を徹底する①音出しをする②③④パート譜、スコア共に見て練習する⑤⑥⑦⑧指定された各々の曲を聴き音出し⑨⑩指定された楽曲を聴き音出しし、バンドスコアを可能な範囲で読めるようにしておく⑩試験曲を考えておく⑪⑫⑬試験曲を練習しておく⑭⑮伴奏者との合わせ並びに意見交換を入念に行う
事後学修	0.5時間	①～⑮楽器の清掃・消毒管理を徹底する①基本練習の確認及び各担当講師の履修確認②③指定された各パートを練習する④⑤⑥⑦⑧⑨指定された楽曲を聴き練習する⑩⑪⑫⑬試験曲を練習する⑭⑮伴奏者とともに試験の想定で合わせる
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	授業時間内において適時説明する。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等

定期試験	70%	実技：Ⅰ・Ⅱを経て習得した技能をまとめたうえで、演奏曲が自らの音楽として奏でられているか。
上記以外の試験・平常点評価	30%	指摘された問題点の改善、取り組みに対する姿勢。学んだ内容について能動的に論ずることが出来ているか。

補足事項	・管打楽器奏法Ⅲは、履修者人数が少ない場合があります。その場合に備えてあらかじめ試験の伴奏者を決めておく事を推奨する。 ・管打楽器奏法Ⅲ金管楽器選択は集団レッスンで行う内容が多いため履修者数によっては教室の変更することがあります。

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
朝練トランペット等（他金管楽器）	各著作者	全音楽譜出版社	各番号	管打楽器奏法Ⅰ・Ⅱと同じものを使用

参考資料	はじめての管楽器メンテナンスブック（金管楽器編）（ヤマハミュージックメディア出版社） (ISBN番号978－4－636－85476－3 C0073)

科目名	管打楽器奏法Ⅲ		担当教員	桜井　牧男	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED4MIM407
期待される学修成果	教科教育　態度				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	管打楽器奏法Ⅰ、Ⅱで習得した技能を更に高め、勉強の集大成となるよう努力する。 又、その楽器の為に書かれたロマン派や近現代の音楽に親しみ、数多くの近代的な奏法や記譜法にも興味を持つようにする。同時にオーケストラにおけるソロも研究して幅広い音楽性を身につける。 選択した管打楽を通して様々な音楽を理解し参加すること。				
授業の概要	基本的には個人レッスンの形態で行うが、時には教師との二重奏や、学生同士のアンサンブルで、合奏力を高め、音楽の楽しさを味わう。 定期試験ではピアノ伴奏で、ロマン派や近現代の作品に触れる。				

授業計画	
第1回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№82（半音階の練習（２オクターブ））
第2回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№83～№84（半音階の練習（２オクターブ））
第3回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№85（練習曲）
第4回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№86～№89（最低音域の運指について）
第5回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№90～№91（付点のリズムについて）
第6回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№92～№95（スケール練習）
第7回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№96（練習曲）
第8回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№97（最高音域の運指について）
第9回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№98（全音域の半音階の練習）
第10回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№99～№105（様々な運指のトレーニング）
第11回	サクソフォーン演奏のためのＡＢＣより　№106～№132（３連符・16分音符・リズムパターン・6/8拍子・9/8拍子・12/8拍子・3/8拍子について）
第12回	試験曲の決定及び譜読み。
第13回	試験曲の完成度のアップ。（ニュアンスの充実）
第14回	試験曲の伴奏合わせ。
第15回	試験曲の最終確認、伴奏合わせ。

事前学修	0.5時間	0.5時間 毎回のレッスン反復練習と、次回のレッスン内容の予習。
事後学修	0.5時間	0.5時間 レッスンの内容の確認と確実性を高めるトレーニングをする。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	最終評価実技試験（演奏）を行い、試験後講評と質疑応答を実施し、今後のレベルアップの為の練習方法、内容、目標についてアドバイスし更に深く興味を持てる様にする。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
定期試験	70%	実技:Ⅰ・Ⅱを経て習得した技能をまとめ演奏曲が自らの音楽として奏でられているか。
上記以外の試験・平常点評価	30%	指摘された問題点の改善、取り組みに対する努力、学んだ内容について能動的に論ずることが出来る

		か。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
サクソフォーン演奏者のためのＡＢＣ	プラティー著	ビヨドー社	なし	なし
参考資料				

科目名	管打楽器奏法Ⅲ		担当教員	中村　まり	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED4MIM407
期待される学修成果					
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	到達目標：Ⅰ、Ⅱで学習した物理的側面、音楽的側面の両立を目標とし、近代奏法や、複雑なリズム、音型の楽譜から美しい音楽を引き出す テーマ：Ⅲでは、近代フランスの音楽をⅠ、Ⅱで学習した技術を用いて表現する				
授業の概要	個人レッスンを基本とし、近代的な奏法や記譜法に興味を持ち、近代フランス音楽の表現を身に付ける Ⅰ・Ⅱで学習した技術、表現に加え、余力を持って音楽を奏で楽しむ				

授業計画	
第1回	レベルに合った任意のエチュード　ドビュッシー：シリンクス　タファネル＆ゴーベール１７の日課大練習№.４を８回に分け、分割練習①
第2回	レベルに合った任意のエチュード　ドビュッシー：シリンクス　タファネル＆ゴーベール１７の日課大練習№.４　分割練習②
第3回	レベルに合った任意のエチュード　タファネル＆ゴーベール１７の日課大練習№.４　分割練習③
第4回	レベルに合った任意のエチュード　タファネル＆ゴーベール１７の日課大練習№.４　分割練習④
第5回	レベルに合った任意のエチュード　タファネル＆ゴーベール１７の日課大練習№.４　分割練習⑤
第6回	レベルに合った任意のエチュード　タファネル＆ゴーベール１７の日課大練習№.４　分割練習⑥
第7回	レベルに合った任意のエチュード　タファネル＆ゴーベール１７の日課大練習№.４　分割練習⑦
第8回	レベルに合った任意のエチュード　タファネル＆ゴーベール１７の日課大練習№.４　分割練習⑧　成果の発表
第9回	定期試験曲を決める（近代フランスの曲から講師と相談のうえ決める）
第10回	定期試験曲のレッスン　譜読み
第11回	定期試験曲のレッスン　フレージングを考える
第12回	定期試験曲のレッスン、美しい音色で吹けるようにする
第13回	定期試験曲のレッスン、ピアノとの伴奏合わせをする
第14回	定期試験曲のレッスン、伴奏者とのバランス、細かなニュアンスの統一する
第15回	定期試験曲のレッスン、試験を想定し発表

事前学修	0.5時間	ドビュッシー：シリンクスの譜読みをしておく
事後学修	0.5時間	Ⅰ、Ⅱで学んだ技術を試験で音楽表現として演奏できたかを振り返り、今後に生かせるようにする
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	●授業内に、課題改善ができているか個別にコメントし現在の状況がわかる様にする ●試験（実技）の終了後に、演奏内容の評価（良い点、改善点）を個別にコメントする	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
定期試験	70%	レッスンで習得した技術を用い、どこまで音楽的に表現出来たかで評価する。
上記以外の試験・平常点評価	30%	レッスンで学んだことが、次のレッスンで生かされているか、その努力を評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし	なし	なし	なし	なし
参考資料				

科目名	管打楽器奏法Ⅲ		担当教員	悪原　至	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED4MIM407
期待される学修成果					
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	リサイタル開催、依頼演奏				
実務経験を生かした授業内容	実技演奏試験に向けての楽曲演奏やマナーを学ぶ。				
到達目標及びテーマ	管打楽器奏法Ⅰ・Ⅱで習得した技能を更に高め、クオリティの高いパフォーマンスを行うことができる。				
授業の概要	小太鼓・マリンバの基礎技術を安定させ、高度なテクニックにも取り組む。集大成として完成度の高いパフォーマンスを行えるよう研鑽を積む。				

授業計画	
第1回	管打楽器奏法Ⅰ・Ⅱの復習
第2回	小太鼓：二つ打ちのテクニック　導入
第3回	小太鼓：二つ打ちのトレーニング
第4回	マリンバ：4本マレットのトレーニング
第5回	マリンバ：4本マレットのトレーニング　応用編
第6回	上級エチュード　1曲目　譜読み
第7回	上級エチュード　1曲目　トレーニング
第8回	上級エチュード　1曲目　仕上げ
第9回	上級デュオ・エチュード　1曲目　譜読み
第10回	上級デュオ・エチュード　1曲目　トレーニング
第11回	上級エチュード　1曲目　仕上げ
第12回	基礎のブラッシュアップ　試験曲の選定
第13回	試験曲　譜読み
第14回	試験曲　トレーニング
第15回	試験曲　仕上げ

事前学修	0.5時間	各授業の終わりに提示する事前学修課題を練習する。エチュード及び試験曲の譜読みを進める。
事後学修	0.5時間	授業でのアドバイスをもとに練習に取り組む。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	達成状況を口頭で伝える。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
定期試験	70%	演奏完成度を審査
上記以外の試験・平常点評価	30%	授業に対する意欲・態度
補足事項		

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
個別に指定	なし	なし	なし	なし

参考資料	